



自分の力で輝く夏休みに

校長 田邊 雅也

デジタルネイティブの子供たちは誇り

7月11日に埼玉県と朝霞市の教育委員会関係者の皆様、7月13日に株式会社ポプラ社の皆様
が本校に視察にいらっしゃいました。子供たちがiPadを駆使して話し合いながら学ぶ様子を見て、とても喜んでいらっしゃったと同時に、デジタルネイティブの子供たちの主体的に活動の様子に驚いていらっしゃいました。

六小の「MottoSokka!」の利用率が全国の中でも大変高いため、特に株式会社ポプラ社の皆様は、子供たちがどんな使い方をしているのかを視察するために来校されました。開発者の方が「子供たちが大人が会社でやっていることと同じことをして、探究心にあふれています。本当に驚きです。」とおっしゃっていました。私は、そんな子供たちを誇らしく思いました。

OECDの道しるべ

6月号から紹介しているOECDですが、経済協力開発機構といい、欧米、日本を含め、38ヶ国の先進国が加盟する国際機関です。①経済成長、②貿易自由化、③途上国支援（OECDの三大目的）を達成しようとしています。そのため各国の教育改革の推進と教育水準の向上にも役立つとうし、2019年に「OECD Learning Compass 2030（OECD学びの羅針盤2030）」を発表しています。文部科学省が推進する「令和の日本型学校教育」とも共通点が多いです。

2030年以降の世界は、複雑で予測が難しいとよく言われます。以前にも増して想像を絶するニュースをよく耳にするようになりました。OECDも文部科学省も、不透明な未来を担う子供たちに、今からどんな力を身につけさせるべきなのか、大切な道しるべを与えてくれています。

AARサイクルとウェルビーイング

Student Agencyを高める「AARサイクル」

- Anticipation … 自分で問いを立て、見通す
 - Action … 自分で学び、行動する
 - Reflection … 振り返る
- さらなる問い（Anticipation）へ
そしてWell-beingを目指して

OECDは、何か探究したり、課題を解決したり、変革を起こしたりするための方法として、左のように示しています。

この流れは3つのアルファベットの頭文字から「AARサイクル」と呼ばれています。このサイクルを通して、自分で責任ある行動をとる能力のことを「生徒のエージェンシー」（Student Agency）としています。

これは、「私たちが望む未来—ウェルビーイング2030」（The future we want: Well-being 2030）を達成するための大切な能力と言えます。「私たちが望む未来」を達成するなんて、大げさだと感じるかもしれませんが、難しいことはありません。小学生なりの身近な気づき、探究心、課題解決に寄り添うことで、「私たちが望む未来」を切り拓く資質・能力を子供たちに身につけさせることにつながるからです。

「AARサイクル」でやり遂げると、最終的にウェルビーイングを感じると言われています。その学びが何かの役に立ったり、誰かを喜ばせたりすることができれば、自分にも周りの人にもウェルビーイングを与えられます。こうしたエージェンシーを子供たちに身に付けさせることは、大人の大きな役目です。（※ウェルビーイング…幸福、健康、良好な状態）

自分の力で輝く夏休みに

夏の課題も豊富に挙げておりますが、自分にぴったりの学びは他にもあるかもしれません。大人は、「子供たちは自分の人生やまわりの世界を良くする意思と力を持っている」「子供たちは自律した有能な学び手である」という前提に立つことが大切です。なかなかお子さんが行動を起こすことができず、大人の忍耐が試されることもあると思いますが、それも「自律と探究」の過程のひとつではないでしょうか。自分で学び、自分から探究しながら、目指す学校像である「子供たちは愛されることによってさらに輝く～自律と探究～」をご家庭でも実現していたら幸いです。

この1学期、本校の教育活動にご理解とご協力を賜り、ありがとうございました。「自律と探究」のある素敵な夏休みになるますようお祈りいたします。また、新型コロナウイルス感染症にはくれぐれもお気をつけください。